

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-0841	
施設名	北保育園	
施設所在地	国立市北3-1-1	
法人名	社会福祉法人国立保育会	
活動期間	令和7年5月から令和7年10月	
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。
	公表したホームページ等のURL	https://kunitachihoikukai.jp/kita/?cat=6

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	野菜の不思議 <4歳児 夏野菜を育てよう>					
実施回数・期間 (注2)	合計3回（内訳：5月1回、6月1回、10月1回） 令和7年5月から令和7年10月まで					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	人	人	人	人	14人	人
活動内容 (注3)	北の畑に大豆の種をまき、栽培・収穫・味噌作りを行った。					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 実際に種を触り、固さやおいを確かめ、意見を言う機会を設けた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		※記録をどのように行ったか 子供たちの言葉をメモで記録するとともに、活動の様子をタブレットを用いて写真にて記録した。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 子供たちが自由に道具を使用したり、素材を選んだりしながら自分の興味に基づいて自由に活動できる環境を整えた。保育者は子供の主体性をもとに活動を展開し、見守ることを心掛けた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
		※振り返りの実施方法 毎日の水やりや雑草抜きを行うことで、興味関心を深め、生長前の写真をもとに発見をするようにした。				
<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。					
	※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、ドキュメンテーションやブログをもって探究活動の様子を周知した。					
<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
	※継続的な実施のための工夫 活動中の子どもたちの反応や興味関心に着目し、図鑑を用いたり絵を描いて掲示することで、活動を発展させた。					

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0841
施設名	北保育園
施設所在地	国立市北 3 - 1 - 1
法人名	社会福祉法人国立保育会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

野菜の不思議 < 4 歳児 夏野菜を育てよう >

<テーマの設定理由>

北の畑で夏野菜を育て、野菜の不思議に気づかせ食育につなげる。

2. 活動スケジュール

5月 苗植え・種蒔き、草取り
7月 水やり・草取り
10月 収穫

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ①耕運機で畑を耕し、栽培できるようにうねをつくった。
- ②枝豆種、ズッキーニの種、キュウリ・ナス・ピーマンの苗をグループで蒔いた。
- ③ガチャポンプからじょうろで汲んだ水で毎日水やりを行い、収穫を楽しみにする。
- ④土の状態(乾燥していないかなど)を確認したり、残飯を生ごみ処理機で肥料にしたものを畝にまいたりした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 5月 大豆のうねをつくる。種や苗をグループで蒔く。
6～10月 水やりや雑草抜きを行う。
10月 収穫する。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- ①耕運機で耕すのを離れた場所から見学し「何の野菜を育てる?」「早く食べたいね」と言う。
- ②「優し布団をかけてあげよう」「早く大きくなってね」と声をかけながら撒いていた。
- ③収穫時期になると「この大きさは食べられる」「赤ちゃんのピーマンはもうちょっと待とう」と友達と相談しながら収穫をしていた。
- ④収穫をする前に害獣に食べられてしまうと手で大きさを図り「このくらいの生き物ってなんだろう?」と言っていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

- ①毎日水やりを行う際、保育者が声掛けをしなくても野菜に声をかけながら水をあげていた。自然に優しく接する気持ちも育めたように感じた。
- ②収穫時期の大きさの写真を作り並べて図れることで、子ども達だけでも確認し収穫を楽しめた。
- ③収穫したものを給食室に持って行くことで、達成感を味わっていた。また、給食で出てくることで苦手な野菜も食べてみようとする姿があった。
- ④収穫前に野菜を害獣に食べられてしまったため、対策を早めにしてあげればよかった。